

# 東日本大震災による東松島市の被害状況

2011年(平成23年)3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖130キロメートルの太平洋の海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生。地震の規模はモーメントマグニチュード(Mw) 9.0で最大震度は震度7(宮城県栗原市)、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震です。

本市でも震度6強を記録し、野蒜地区では浸水高10.35m(第1波)、大曲浜地区では5.77mを記録し、両地区では壊滅的な被害を受けました。浸水面積は、実に市の面積(101.86km<sup>2</sup>)の約36%(37km<sup>2</sup>)で、その内住宅用地(市街地12km<sup>2</sup>)の約65%(8km<sup>2</sup>)が浸水するという甚大な被害を受けました。



▲野蒜地区 津波により東名運河に流された家



▲野蒜地区 住宅地が消滅した新町



▲宮戸月浜地区 堤防も破壊され住宅も流出



▲大曲浜地区 港から住宅地を抜け流された船



▲大曲地区 水田の中央まで流された家



▲南赤井地区 1週間以上もJR仙石線の線路まで冠水



▲南赤井地区 矢本第二中学校校庭で水没している避難者の車



▲大曲地区 津波に押されて車が集積

- 人的被害 (2014年(平成26年)3月1日現在)
- 死者 1,109人(東松島市民、市外での死者含む)
  - 行方不明 25人

- 家屋被害 (2013年(平成25年)12月31日現在)
- ※り災証明書発行件数 合計 14,579件
- 全壊 5,513件 ●大規模半壊 3,606件
  - 半壊 2,500件 ●一部損壊 3,506件

- 公共施設の被害金額 (被害調査継続中)
- 公共施設(庁舎等) 9.86億円
  - 市道・橋梁等施設 100.07億円
  - 下水道施設 74.48億円 ●教育施設 92.64億円
  - 福祉施設 12.23億円 ●保健施設 0.21億円
  - 農林水産施設 363.61億円
  - 観光施設 3.57億円 ●情報施設 3.90億円
  - 防災施設 8.14億円
- 合計 668.71億円

# 東松島市の震災復興状況

東日本大震災の津波による被害が甚大であった市街地または集落を、移転促進区域(7地区)に指定し、多重防御(防災緑地・高盛土の道路等)により内陸側の安全な丘陵地または既存市街地周辺に住宅地(7団地)を整備し、移転を図る計画です(平成24年度～平成28年度)。

## ■移転先(7団地)

- ①野蒜北部丘陵団地、②東矢本駅北団地、③矢本西団地、④牛網団地、⑤月浜団地、⑥大浜団地、⑦室浜団地

☆移転促進区域内の住居数:2,321戸 → 7団地への移転住居数:1,288戸  
(住宅敷地:717区画、災害公営:571戸)

★災害公営住宅整備事業のみによる整備団地[8地区]395戸

※整備計画個数:1,010戸 → 現段階整備個数 966戸(395戸+571戸)

③矢本西団地  
【H24年度～H26年度】  
事業手法:開発行為  
全体面積:6.0ha  
(うち団地6.0ha)  
住宅用敷地:87区画  
(2.8ha)  
災害公営住宅:40戸(0.7ha)

②東矢本駅北団地【H24年度～H27年度】  
事業手法:土地区画整理事業  
全体面積:21.9ha(うち団地21.9ha)  
住宅用敷地:273区画(8.6ha)  
災害公営住宅:307戸(4.8ha)  
東松島市津波復興拠点事業

④牛網団地【H24年度～H26年度】  
事業手法:開発行為  
全体面積:4.5ha(うち団地4.5ha)  
住宅用敷地:74区画(2.6ha)  
災害公営住宅:29区画(0.6ha)

①野蒜北部丘陵団地【H24年度～H28年度】  
事業手法:土地区画整理事業  
全体面積:91.5ha(うち団地24.6ha)  
住宅用敷地:278区画(9.1ha)  
災害公営住宅:170戸(3.2ha)  
東松島市津波復興拠点事業

⑦室浜団地【H24年度～H26年度】  
事業手法:開発行為  
全体面積:2.8ha(うち団地2.8ha)  
住宅用敷地:6区画(0.2ha)  
災害公営住宅:15戸(0.3ha)

⑥大浜団地【H24年度～H26年度】  
事業手法:開発行為  
全体面積:3.1ha(うち団地3.1ha)  
住宅用敷地:10区画(0.3ha)  
災害公営住宅:6戸(0.1ha)

⑤月浜団地【H24年度～H26年度】  
事業手法:開発行為  
全体面積:2.8ha(うち団地2.8ha)  
住宅用敷地:18区画(0.6ha)  
災害公営住宅:4戸(0.1ha)



▲牛網団地



▼野蒜地区丘陵団地



▲奥松島「絆」ソーラーパーク



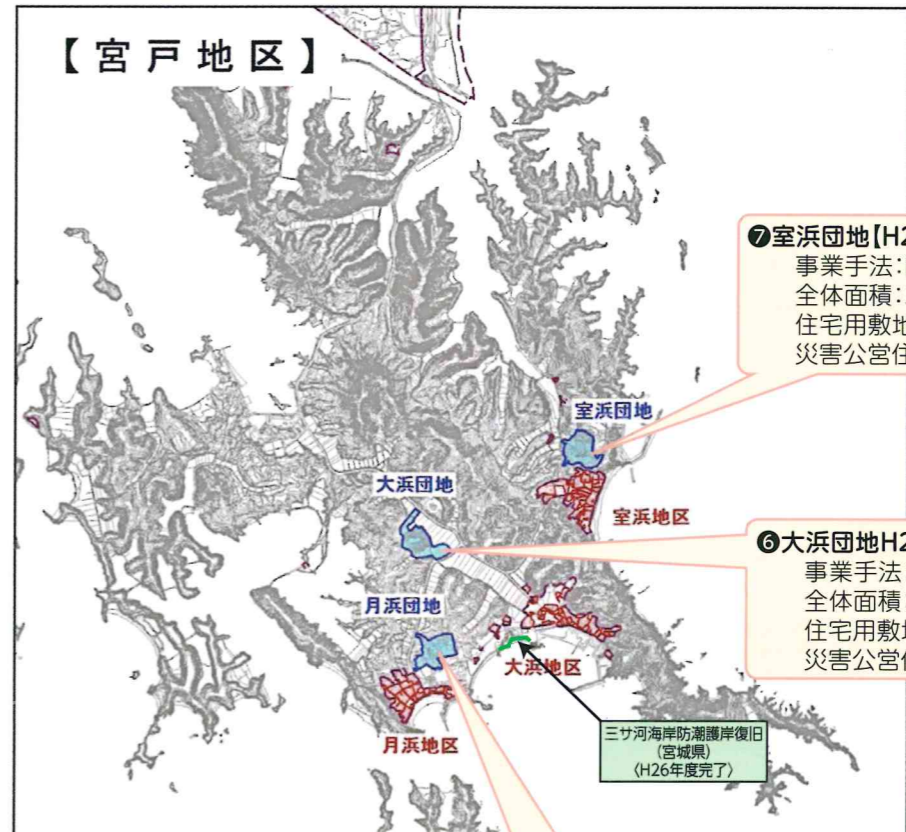
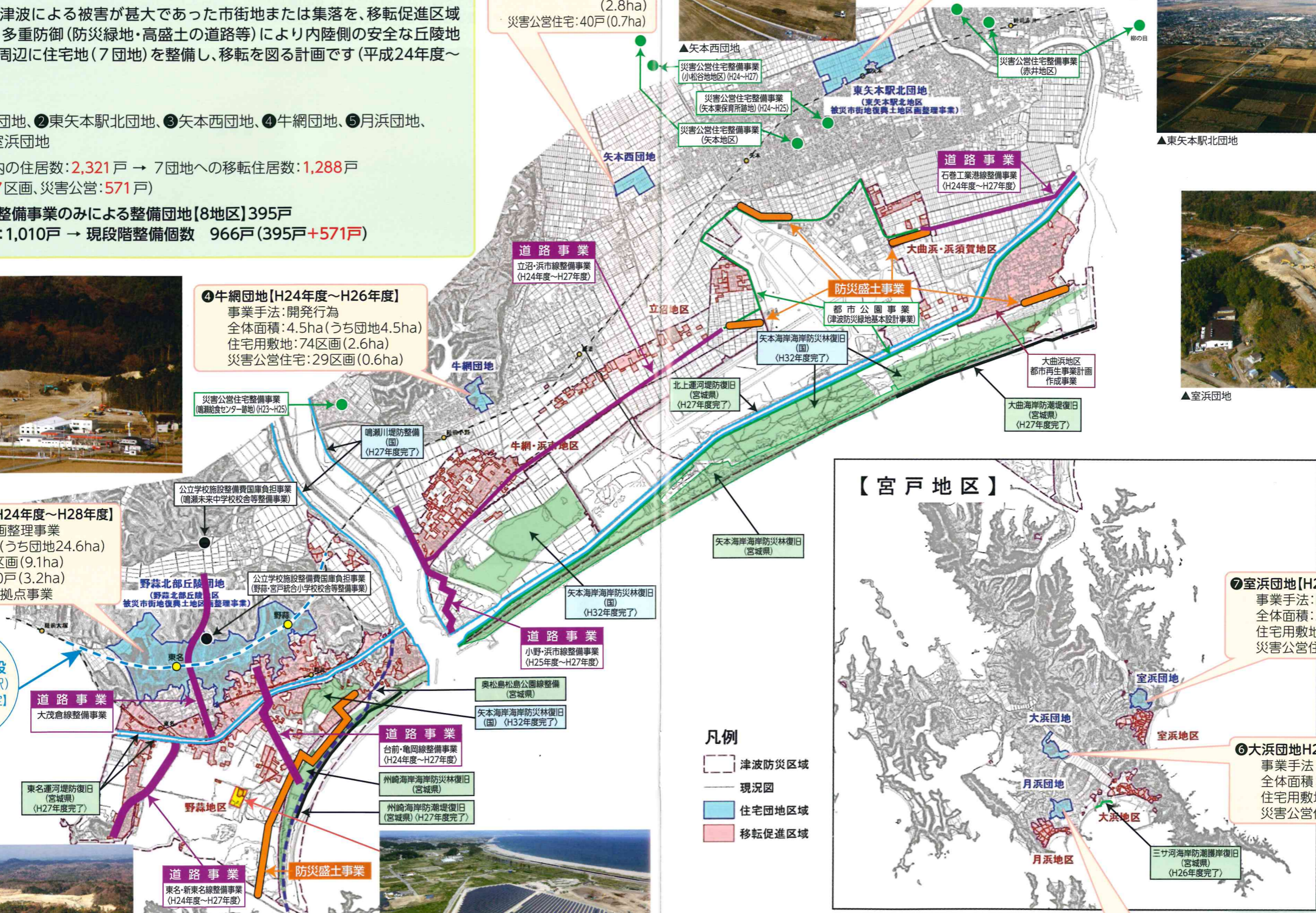
▲矢本西団地



▲東矢本駅北団地



▲室浜団地



凡例  
 津波防災区域  
 現況図  
 住宅団地区域  
 移転促進区域

# あの日を忘れず「東松島一心」とともに未来へ



2011年（平成23年）3月11日発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、私たちがこれまで経験したことのない未曾有の震災被害をもたらし、生活基盤である都市機能や産業基盤が壊滅的に破壊され、多くの尊い人命が失われ、自然の力の前では人間は無力であると思われ知らされました。

## 復旧・復興を目指し

被災状況の中でも国内外から多くの救援や支援、ボランティア活動による物心両面からの援助を受け、多くの市民が深淵の縁から光明を見だし、復興へ向けて歩き出すきっかけになりました。

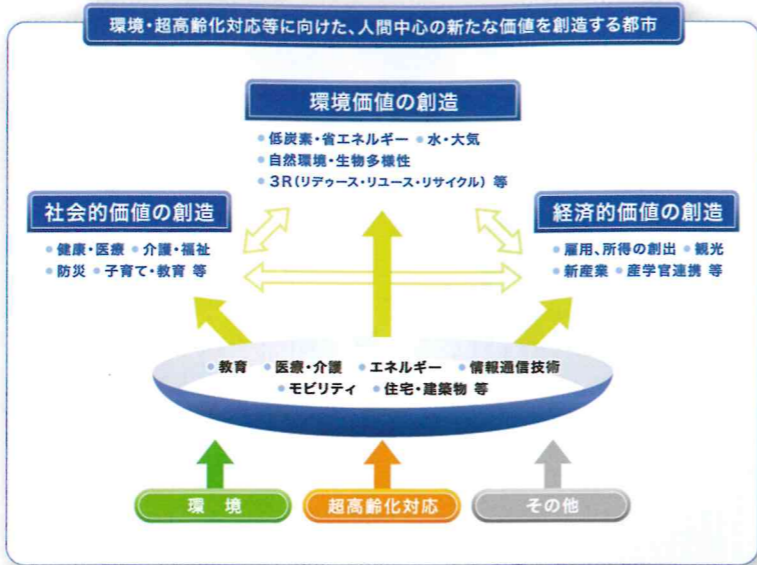
現在（平成26年3月1日時点）もまだ5,670人、2,297世帯の人々が応急仮設住宅（みなしも含む）に住んでいる状況です。



●一般社団法人「東松島市みらいとし機構」（愛称：HOPE）



●環境みらいとし実現に向けたシンボルの電気自動車



復興を進めるために2011年（平成23年12月22日）には、内閣府より「東松島市環境未来都市」構想の認定都市に選定されました。そして、クリーンエネルギーを活用した環境に優しく災害に強いまちづくりを目指し、官民連携で復興事業を進めるための情報共有や新たな創造の場として、中間支援組織「一般社団法人東松島みらいとし機構（愛称：HOPE）」を設立。HOPEでは、短中期の重点プロジェクトとして、まち

## 未来を見つめて

況ですが、防災集団移転や土地区画整理事業の平成28年度完了に向けて、各地域でまちづくり組織が立ち上がり、自分たちのまちづくりが進められています。市でも、市民・有識者を交え復興まちづくり計画市民委員会を設置し「復興まちづくり計画」を策定。「災害に強く安全なまち」「安心して笑顔で暮らせるまち」「産業を育て働く場をつくるまち」の3つの将来像を掲げ、安全で安心なまちづくりを実現するため、復旧・復興事業を進めています。

のくらしや産業の復興を進め、中長期的には、いっしん（二新・一心・一進）プロジェクトとして地域コミュニティや分散型の地域エネルギーの復興を進めていきます。また、将来を担う子どもたちのために自然環境を学習に活かした「森の学校構想」や観光・物産事業の展開や地域医療体制の構築など多岐にわたる事業を進めるなど、東松島市の未来の創造を目指し「東松島一心」を合い言葉に、復興まちづくりを進めています。

## HOPE=復興事業の中間支援組織

